

2011年7月号

通巻 571号



圓環

発行所 生長の家ブラジル伝道本部

発行人 村上真理枝

第33回 神性開発一般献勞練成会

イビウーナ 2011年4月20日~24日



「当たり前前の人間として感謝する」

せいちょう いえ しょうかそうちよう むかい よしお
生長の家ラテン・アメリカ教化総長 向 芳夫



がっしょう
合掌ありがとうございます。
とし か かわりーあつと云う間に半年が過ぎ、下
はんき げんこう か
半期の原稿を書くことになりました。

とき す 過ぎる速さに驚き、振り返って見る時、
なに とくべつおお で き こと もなくごく当たり前
してきた様に感じられます。当たり前とは何だろ
うか？と反省して見る。毎日ごく自然に業務を進
めて下さる責任者一人一人の愛念のおかげでは
ないでしょうか。すると私達はその方々に感謝し
なくてなりません。感謝すると言う事は、人として
はごく自然な姿であり、その言葉の表現は色々
あり学ぶこともできますが、ありがたいと云う心は
小さな子供でもすでにあり、物を与えれば「有難う」
という言葉が返ってきます。ありがたく思う心は人
それぞれすでに与えられているものです。

感謝とか謝恩というと、何となく窮屈な感じ
がしますが、常日頃、“ありがとう”“おかげさまで”
と交わす言葉がどれほど人と人の間に潤いを施
すことでしょうか。得に生長の家の教えでは来場
下さる人たちの挨拶に“感謝合掌”で迎える習慣
があります。初めての人には多少違和感があるか
もしれませんが、この感謝合掌で迎えられたこ
とが後に印象に残り、なぜか？と考え、頂いた翻
訳月間誌を読み始めたと言ふ体験を多く聞きます。
合掌して“ありがとうございます”の言葉が与える
影響は大きいことであるとわかります。

ことば あらわ わたしたち しょうらい きず
言葉に表すことが私達の将来を築くこと
になります。なぜかと言ふ言葉はすでに自分の
意思を表したこととなります。表現したとい
うことはその形がすでに心の中にはあると云う事
で、それを形に表せば良いと云うことです。要す
るに常に新しいアイデアを持っている会社又は企
業は必ずのびます。

人間の知恵というものは、しばしばいくらで
も出て来るものです。もうこれでおしまい、も
うこれでお手上げ、というのではなく、成す
べきことを成すと云う強い決意と信念を持って、
前進したならば必ず善き知恵がでてくるもので
す。勿論一人一人の知恵には限りがあるかもしれ
ませんが、その時わからぬことは人に聞くと云
う謙虚さがあれば、それらの知恵が自分の知恵に
加わって無限にこんこんとわき出てくるもので
す。要するに、何を成すかを心に決めて多くの人のた
めになる事に専念し、愛念を持って人のためにな
る愛行を実行するとき、さらに神の知恵が加わり
ますと無限に進展するのです。

全国の講師幹部のみなさん、毎日のお祈りで
「神の無限の知恵我が内に流れいる、流れいる」、
と繰り返し念じる時、無限の善き知恵が私達を導
いて下さるので必ず目的が達成されますので、年
の後半を目標達成に頑張ってください。

さいがっしょう
再合掌

「神の国は今ここにあり」

せいちょう いえ でんどうほんぶ りじちよう むらかみ まり え
生長の家ブラジル伝道本部理事長 村上真理枝



がっしょう
合掌、ありがとうございます。

「あなたはどんな職業に付こうとも、どの
任地に赴こうとも、また誰と結婚することにな
ろうとも、取り越し苦労も心配もいらぬのであ
る。何故なら何処へあなたが行こうとも其処は
やはり神の領土であり、神の左まさないところ
はなく、常に神がまもっていられるからである。
自動車にのつても、自動車にのつても、船で旅し
ても、飛行機で旅をしても、常に神はあなたと共
にあるのである。それを自覚するがよい。それを
憶い出すがよい」。『生活の智慧 365 章』58 ページ。

何とありがたいお言葉でしょう！人間は自分
の力で生きている、自分はもつとがんばらない
と人に負ける、等と「自分」を先に持ってくる
から壁にぶつかり、足を踏み外したりするので
あります。ところが生長の家の根本的教えは、
「人間は神の子以外の何者でも無い」という教え
でありますから、この自覚に目覚めた時、全て
のものはことごとく神のものでありと分かり、
そうしますと無条件にありがたくなるのであり
ます。そうしますと、天地一切のものが自分の
味方になるのであります。どこへ行こうとも、
どこへ嫁ごうともそこには神様以外に誰もいな
い、何故なら全て神の領土であるという教えは
人間を全ての束縛から解放するのであります。

仕事もうまく行かず、借金はつのも、その
ために家庭は不調和で死ぬより道はないと考
えていた Poços de Caldas 市の Luis Antonio
Francisco さんはある日、この「あなたはどこ
へ行こうともそこは神の領土である」という
生長の家の教えをテレビで見て、ワラにもすが
る思いで毎日の生長の家のテレビ番組をテー
プに録画し、病気で床についていた妻に見せ、
生長の家の集まりに参加するようになると、妻
の病気は癒され、仕事は順調に運び、借金は
すべて返済し、今までの不幸が嘘のように消え
去った時、まさに「この世には神様以外にだれ
もいない」を自覚でき、全ての束縛から解放さ
れたのであります。更にその恩返しに、Luis
Antonio さんは在住する Poços de Caldas 市
に生長の家の集まりをするための立派な会館を
自費で建設し、生長の家に提供したのでありま
す。感謝報恩の心を大切にす Luis Antonio さん
のご家族に幸あらんことを心より祈念いたします。
宇宙全体は神の「大生命」の大海原であり、
神は常にわれと共にあることをいつも自覚し、
それを常に思い出して最高にすばらしい毎日
を過ごされますよう祈念いたします。

さいがっしょう
再合掌

「谷口輝子聖姉 23 年祭・記念見真会」



「甘露の法雨」の読誦を先導するリリアン・スジ・ノリマツ本部講師補

Leitura da Sutra Sagrada Chuva de Néctar conduzida pela prel. Lilian Súzi Baffi Norimatsu

去る4月20日(水)、伝道本部大講堂に於いて、谷口輝子聖姉の23年祭が行われ、ご遺影が白鳩の皆様によって祭壇に飾られ、生前のご遺徳を偲び、約300人が参列した。

午後1時から「実相を感じる歌」が斉唱され、「祈りの言葉」をラ・米教化総長・向芳夫本部講師が称え、聖教『甘露の法雨』はリリアン・スジ・バッフィ・ノリマツ本部講師補が先導を努め、参列者が感謝の真心を込めて読誦する中、香を捧げ、ご冥福をお祈りした。

生長の家伝道本部理事長・村上真理枝本部講師は、参列者にお礼の言葉を述べ、「輝子聖姉は愛の証であり、全てのご著書に愛が感じられる。その生涯を通じ、女性としての生き方を、身を持って私たちに教えてくださり、今は霊界からわれわれの



「感謝の心を込めて聖歌を斉唱する参加者」

Participantes entoam o Hino com o sentimento de gratidão

人類光明化運動を導いて下さっておられるので、そのご恩に報いるために、より一層の運動をしなければならい」と、さらなる運動の展開を呼びかけた。

23年祭の式の後、記念見真会が行われ、市川レオノール講師は講話の中で、「大聖師は輝子聖姉とご結婚をされ、聖師に励まされていなかったら、生長の家を始めていなかった。そして大勢の人々への教えの布教を続けていなかったと、ご著書にお書きになられている」と話した。又、輝子聖師のお陰でわれわれは母として、妻としての使命を知ることができ、世界平和のための女性の役割の重要性を語った。

「23年祭にあたり、心を新たに、真理の普及に全力を尽くしましょう」と呼びかけ、講話が終え見真会は終了した。

第33回神性開発一般献勞練成会



「『お父さん、お母さん、ありがとうございます』の感謝の言葉を称えながら、無心に畑の除草をする参加者」

Seminário de Oferenda de Trabalho - Na plantação de Chá

記念すべき第33回献勞練成会は去る4月20日から、5日間を通して全ての行事は神様の加護をいただきお天気に恵まれ、暑くも寒くもなく秋晴れの大きな空の下で、聖地イビウーナの丘で行われた。

練成参加者の皆さんを喜ぶが如く前庭のパイネイラの花が満開となっていた。

五日間の司会は小田力講師、塩見輝子講師、横山正弘講師、渡司春恵講師が勤めた。

担当は、中村厚子講師、笹島彦栄講師、横山澄子講師、橋本清講師、そして特別招待として石井ルイス本部講師補が招待された。

早朝行事で笑いの練習、ラジオ体操で新鮮な空気を胸いっぱい吸い込み、清々しい気持ちで一日が始まる。

朝と夜は真理の勉強、午後からは楽しい献勞で身も心も清まる。

この献勞練成会は1954年、宇治練成道場で始められた。道場を建てる地ならし



の献勞が発祥となった。荒山を崩して低地を埋める作業であったが、この無我献勞に参加することによっていろいろ不思議な神癒があらわれた。

献勞現場では太鼓に合わせて「練成献身譜」を元気よく斉唱、献勞開始の祈り、『甘露の法雨』の読誦が行われた。

一日目と二日目は茶摘みを行い、一葉一葉感謝を込めて摘み取った。献勞の後は、青空の下で食堂の皆さんが作ってくださった

おいしいコーヒーとケーキをいただき、その後、全員で音楽に合わせて楽しく踊った。

献勞の後の体験談で、伊藤善作伝道員が知らずに何人も恨んでおり、腸閉塞になり、もう最後かと思いつつも神に祈ったところ助かったと話した。

夜の講話で中村講師は、神は善であるのに不幸と見ることが現れるのは我らの心の迷いからである。常に笑いを忘れない



「笑い引き出す内なる喜びがあふれんばかりの光景」 Um dos grupos do Concurso do riso

生活をし、何歳になってもかわいいと言われるように努力をしましよと話された。

笹島講師は「悔い改めの倫理」と題して講話を行い、病気の人は病気を抱えているから治らないので、心から放つことである。また、横の真理を使って縦の真理（人間神の子）を現して行くのが生長の家の教えだと説かれた。又「神想観の意義」と題して講話で心の自由を得る為には祈って神と波長を合わせる事が神想観であり、神と一体になった時に、全ての面でお守り、お導きをいただけると話された。

二日目の講話「聖愛の実践こそ神への道」の題で中村講師は、「近年夫婦の離婚がおお多くなっているが、お互いの努力の積み重ねが夫婦の愛をつくる、そして夫婦の愛はお互いにどのようにして相手を喜ばす事が出来るかを考えるのが夫婦の愛であると語り、原爆に遭い、醜くなった妻を介護した人の例を話された。

「肉食と平和の問題」についての講話で



「笑い大会の優勝者の皆さん」 Os classificados no Concurso do riso

橋本清講師は、「殺すなかれと仏教もキリスト教も説いている。世界で作っている穀物の1/3は動物の飼料。人間が食べる分だけを栽培すれば飢饉の問題は解決し、世界平和又環境問題に貢献する事ができると話された。

三日目の献労は農園で茶畑の除草、四日目は野菜畑の草取りを明るい雰囲気の中で両親への感謝の言葉を連呼しながら行った。レタス、ベテハーバ(ビーツ)、キャベツその他などが立派に育っていた。

休憩の後、羽田さよ講師、上岡尚昭講師が感動的な体験談を行い、次いで笑いの大会がグループごとに行われた。

献労で尊い汗を流し、清々しい気持ちで、夕食がより美味しく感じられた。

夜の「浄心行」は、横山講師の先導で行われ、受講者の皆さんは感謝の真を捧げ心を洗い清めた。

石井ルイス本部講師補の講話で東日本大震災救援のために来日したベトナム人の

体験を交え、日本人の素晴らしさについて語った。

四日目の夜は広場にて「聖火祭」が行われ、各教化支部の代表者が聖火に今後、よりいっそうの愛行を誓った。

「聖火祭」の後大講堂にて郷土祭が行われ、永年食堂奉仕をされた先生方又、練成の功労者への謝物贈呈があった。次いで参加者17名ほどの歌と踊りの披露があり、



「担当講師にチョコレート」



「献労前の祈りで身を清める」



「今も食堂で御奉仕をして下さる先生方」

横山雄一講師の寄贈による全員にカップラーメンとイースタを祝うチョコレートを頂いて楽しい郷土祭を終えた。

最終日に閉会の祈りは笹島講師によって行われ、「使命行進曲」を全員で高らかに斉唱して互いに再会を誓って終了した。

満開のパイネイラの花びらが参加者を祝福するかのようになり、広場を染めた。参加者は実行委員を含めて150名。



「中村講師の指導で「てっぱん」を皆で踊る」



「無農薬の野菜が元気に育つ」



「功労者の皆様へ感謝」

「ブラジル生長の家総会・全国教化支部長懇談会」



ISO 14001 及び組織再編成についての説明が行われたイベントで、2010 - 2012 年三カ年活動方針の第一年目は評価され、その成果は参加者に感動を与えた。

2011 年 4 月 30 日から 5 月 1 日、イビウーナ練成道場には教化支部長や教化支部代表者等ブラジル生長の家の幹部が集まり、全国教化支部長懇談会、及び定期総会が行われた。11 月にはさらに連合会長が加わり、同じくイビウーナで 2 度目の総会が行われる予定である。講師局々長の宮浦準治本部講師によると、「総会は今年 3 月に新理事会が発足して以来初めてであるが、とても明るい雰囲気の中で執り行われた。」とコメントした。

寛大さと発展 - 2010 年度活動報告書は「生長の家ファミリー」の稀有な寛大さ

「ブラジル生長の家総会・全国教化支部長懇談会」

を再度証明した。顕著な例として、前年度に比べると増額し 50 万レアル以上に達した年末助け合い運動募金、大きく増加した「平和と環境週間」に訪問された施設数 (76 軒)、倍増した冬着キャンペーンで集まったぼうかんいりょうなどきふまんせんてんいじょうばいぞうした食料品等その他の寄付、増加した妊婦ひつじゅひんきふまんせんてんいじょうなど必需品の寄付 (3 万 5 千点以上) 等が挙げられる。2010 年度の決算報告書は黒字で、ブラジル生長の家が財務的に健全であることを示した。聖典販売、聖使命会費や神癒祈願等による収支も増加し、全ての方面で生長の家の進展が感じられた。

ISO 14001 - 会議では ISO 14001 認証維持事業投資に関する説明がなされた。環境保全室々長と企画室々長を兼任するブラジル生長の家副理事長中野セウエチ講師



「総会の風景 - Assembléia Geral

は「この事業は中期又は長期的にみて確実な利益をもたらすだけでなく、認証された施設の、法的条件を厳密に満たす運営を可能にする」と説明した。

感動 - リオグランデ・ド・ノルテ州マラカジャウー (セイマル) の総合教育センターで基礎教育の約 300 人の児童を対象とする大調和財団の活動や、サンパウロ州アチバイアで 2 歳から 4 歳の幼児 50 人が通うパライーズ保育園の活動がビデオで紹介されると、会場は大きな感動につつまれた。「幹部は涙を流していた」と宮浦講師は語った。宮浦講師はまた「村上理事長が発言するたびに、参加者はみな感動していた」と全国代表者会議の様子を語った。

300 人 - 信仰心はあらゆる場所で見られた。300 人の幹部は運営管理を話し合うために集まっていたにもかかわらず、参加者の思いやりの心は会場を愛で包んだ。定期総会で 2010 年度年間報告書、決算報告書、そして定款変更が承認された日の夜、日本の地震や津波被災者の実相顕現を祈って聖經『甘露の法雨』読誦が

行われた。そして日曜日、すべてのプログラム終了前、向芳夫ラテン・アメリカ教化総長の先導で祈り合いの神想観が行われた。全国代表者会議が祈り合いの神想観で幕を閉じるのは初めてであるが、宮浦講師は「会議は和やかな雰囲気にと終始し、参加者にとって忘れがたいものとなった。そして祈り合いの神想観はそのクライマックスであった」とコメントした。
(Circulo da Harmonia 翻訳転載)

全国教化支部長懇談会
第二日目は、大講堂で全国教化支部長懇談会が行われた。大貫ルイス講師は「全国教化支部長の皆さんは、各教化支部の発展に大いなる働きをして下さっていることに感謝します。」と言われ、又「多くの人を『人間神の子』に導くには、聖典を拡めていくことが大切だ」と強調された。そのあと、各道場毎にグループにわかれて、「いかにして練成会の参加者をふやすか」ということについて意見を出し合った。



「教化支部長懇談会」 - Encontro Nacional dos Supervisores Adm.Doutrinarios Regionais

「生長の家ブラジル塩椎の会創立27周年記念 慈善奉納演芸会」



「練習の成果を披露する子供たち」 Apresentação do Kodomo-kai



「開会の挨拶をする塩椎の会
会長・中村晃児講師」
Palavras do pres. da Associação Shiotsuti
- Koji Nakamura

塩椎の会27周年のお祝いの記念演芸会
が去る5月15日、伝道本部別館に於い
て開催された。招待者や実行委員を含め
700名を超える参加者で賑わった。

横山ジョン講師の御愛念で丹精を込め
て育てられた見事な数々の欄の花で舞台
は飾られた。会場の壁には塩椎の会の皆様
の、俳句、書道の作品が展示されていた。

午前8時に開会の祈りに続いて、塩椎
の会々長・中村晃児講師による開会の
挨拶が行われた。挨拶の中で中村講師
は「今日一日はがんばれ日本！と日本の
上空を覆っている暗雲を吹き飛ばすよう
な激励の思いをこめた演芸会と致したく
思いますのでその旨よろしく御協力下
さるようお願いいたします。」と東日本大

震災の犠牲者の冥福を祈り、参加者の皆様か
らいただいたお祝いは全て義捐金として日本
に寄贈されると挨拶された。

次いで、伝道本部を代表して出席された
寺前継雄副理事長はお祝いの挨拶で、塩椎の
会の為に尽くされた方々への感謝の気持ち
を述べ、「世界中、言葉は違っても愛の運動は
ますますひろが、また大聖師谷口雅春先生が言われた
ように『このみ教えが世界中に広まっていく』
とのお言葉が今実現していると、激励の言葉
を述べた。

民謡、舞踊、子供会のダンス、太鼓、カ
ラオケ、コーラス等多彩な種目で、参加者は
その熱演に終日拍手を送り続けた。お昼に
は会場の外で美味しいお弁当が販売された。
演技と演技の間に抽選が行われ、期待と喜

びの歓声が其のつど観客からあがった。抽
選品の中には、薄型テレビ、電子レンジ、
扇風機、自転車、電気炊飯器、コーヒーマ
ーカーなど魅力的な品が並んでいた。これら
は全てたくさんの方々から寄贈していただ
いた品物である。閉会の挨拶は塩椎の会

副会長、仲宗根朝春講師が行い、大勢の方々
のご参加に感謝の言葉を述べた。80番
までの出演者だったが、実行委員の皆様
の手際よい進行で午後4時に全てのプログラ
ムは終了した。参加者は席を立つことなく、
最後まで残った。



「満席となった会場」
A grande platéia



「挨拶をする寺前継雄副理事長」
Palavras do vice-presidente da
Seicho-no-Ie, prel.Tsugio Teramae



「美味しいお弁当をおねだりする
可愛い観客」

れんさい しんり べんきょう だい かい
連載・真理の勉強 (第 37 回)

『一番大切なもの』

たにぐせいちょうせんせいちよ
谷口清超先生著



ものを求める悲劇 (01)

このように人は金銭を追い求め、それによって幸福を得ようとしても、幸福はスルスルと逃げ出し、つかまえようもない遠方へと消え去ってしまうのである。ところが、本当の「神」を見出し、その御心に従って、愛と親切と感謝を行じて行くなれば、金銭はあとからついて来て、「使って下さいな」とすがりつく。人は貧窮に苦しめられると、とかく金銭を第一目標にして働きだす。個人でもそうだし、会社でも国家でも同じことである。日本はこうして、敗戦の廢墟から立ち上がり、当時は世界一の黒字国にのし上がって来た。

しかしそれだけでは必ず行き詰って、転落のコースをつき進む。そんな実例は数限りなくある。それは第一のものを第一にせず、現象という仮相の一部(金とか名誉など)を第一に置き、それにしがみついているからである。そしてある程度それが実現すると、何となく自分が偉くなったような気がして、とかく傲慢になりやすい。当時、日本が「傲慢になった」という声がチラホ

ラ聞かれるようになったのはまことに残念であるが、ダニエル・バースタイン氏の書いた「YEN!」という本は、日本の資金によってアメリカの国債の利率が、どのようになっても変動させられ、国内パニックになりうるということが記され、しかも日本人の傲慢さを指摘しつつ、アメリカ経済を立て直すと呼びかけている内容であった。

黒字も結構だが、その金を如何に使うかが問題で、物質的な金やものですぐ鼻を高くするような「つまらぬ心」では、世界中の人々から排斥される運命に陥る外はないのである。上述の本の中にも「醜いアメリカ人」が「醜い日本人」に今やとって代わろうとしていると書かれていた。

かつての日本は朝鮮半島を支配し、中国の満州地区に進出したが、そこで最もいやがられたことは、「傲慢な態度」であって、それが排日の炎に油をそそいだのだ。金や技術が悪いのではない。それを第一のものとしてふりかざし、それに心の方が追随し、ふりまわされている人間の悲しむべき行動が、デタラメや傲慢として、非難攻撃の的となるのである。その心は確実

に世界中の人々の幸福にも悪影響を及ぼす。戦争の引き金を引いたり、地球そのものを崩壊へと導くからである。

例えば平成元年三月二日の『讀賣新聞』には、消えゆくアマゾンの原始林の惨状がこのようにのべられていた。

『ブラジルは広い。白人が入植して以来、奥へ奥へと開拓の波が押し寄せてもまだ未開地が残っている。

だから、今でも開拓した土地は自分のものになる。ジャングルに分け入って、木を切り倒し、焼き払って住みつけばいい。

一年と一日たてば自分の土地と認定される。

ところが昨年、憲法改正の動きがあり、農地改革が実行されることになった。これまでのように無制限の土地私有を制限してその代わりに零細農民に土地を与えようという目的だった。

しかし、これを察知した大地主たちは、憲法改正前にたくさんの土地を自分のものにしておこうと猛烈な開拓をし始めたのだ。おかげでアマゾンの森林の一〇%が昨年一年間で消えたといわれている……』

神の愛を求めよ

これは明らかに土地や金銭をわがものにして、人々が大森林を崩壊させて行った乱行ぶりを示している。日本で当時非難の対象となったかのリクルート商法も、自社の利益や業績拡大のために、会社が

きくなってもやたらにワイロ戦術を行使した、その乱心の結実である。こうして小さな目的を追求しつつ、大きな政治的不安をかもし、日本国に重大な損害を与えた。ブラジルの奥地でも、その他多くの国ぐにでも、一部の人の利権のために、全世界の大気が酸素不足へとかかり立てられ、それが地球の温暖化現象の一因ともなっているのである。さらに『讀賣』の記事は、この

『「ともかくメチャクチャな開発ぶりですよ。ひどい時には、人が住んでいようといまいと勝手に自分の土地にしてしまう。インディオや零細農民を力づくで追い出すのですから」

インディオ集落に住みながら研究を続けているアメリカ人の女性人類学者、キャサリン・ホワードさん(三五)の証言だ。

そんな中で、貧しい者の味方となって頑張る神父、弁護士、ジャーナリストなどがはしから暗殺されていった。そして大地主に反抗する農民やインディオらも虫けらのように殺される。

先に手をつけた者が勝ちという伝統と、大地主たちのあくなき拡張欲。それが絡みあってアマゾンの原始林は次々と消えていく。

ここ数年、アマゾンの中で最も開発が進んでいるといわれる Rondônia 州では八月の乾期になると伐採した山や森林が一斉に焼かれるため空が煙でおおわれ、昼間でも太陽が真っ赤に見える。

州都ポルトベアリオ市で養鶏の販売を手がけている日系二世の山口道雄さん(四〇)は「それはすごいものです。目が痛くなるし、車の運転も怖い」と言う……」

目が痛いだけの話ではない、人間の生命まで誘拐されたり、殺されたりしている。このようなことは、全く本末の転倒であり、精神の墮落、神性隠蔽の最たるものだと言わなければならない。遠くブラジルまで行く必要もなく、日本の近くでは東南アジアの森林も亦そのようにして失われて行きつつある。日本内地のブナ林も年々消え去って行き、「開発」されているが、一見文明化と見えるこの外観は、実は地球の死滅を弔う行進でもある。さらにえぞ鹿やかも鹿も次々に殺され、動物たちは次第にその棲家を失い、人間もまたやがてその後を追うことになろうとしているのである。

欲望や金銭に目のくらんだ人々は、一見「成功」するように見えることも多い。しかし年月が経つにつれて、「内部崩壊」が始まるのだ。それは「業の自壊作用」が起るからである。その段階になって、急にあわてふためいても追いつかない。やがて行きつくところまで行きつくのが大半で、途中で大懺悔が行なわれる時にのみ、まだ救いは可能である。

それ故吾々は、地球が終熄にいたるまえにその滅亡を防止すべく、急いで人心の一新をはかり、物や金を第一に置かず、「神と愛」を第一とするように、大々的な宗教

活動を展開したいと熱願しているのである。しかしこの純粋な願いを、世の中の人々はまだ誤解して、利権や利欲にくらんだ目をもって軽視したり、特別視したりする。

いやそれどころが信仰者をもって任ずる人々の中にも、利己的な願いを優先させ、そのために神の力を"利用"しようとする人たちもいる。そのような考えでは、信仰が本物とならず、依然として物欲や名誉欲が第一に置かれ、それを追い求める信仰となっている。そのインチキ姿勢が無神論者の軽侮を買い、信仰の純粋なものまで非難されるのである。

しかし、純粋なものは結局万人から尊敬され、愛される。それは丁度昭和天皇陛下の純粋性が万人によって尊敬され、全世界百六十四カ国が御大喪に集ったようなものである。時に人々は逸れに逆行して、純粋性を嘲るかも知れない。しかしそれでもそのような人は必ずその過ちを、いつの日にか反省せざるを得なくなる。そのような時が必ず来るのが「業の法則」の厳しさである。

奪う者は奪われ、嘲る者は嘲られ、そして尊ぶ者が尊ばれるのだ。山を愛し、河を愛し、いきとし生けるものを愛する人間が、全てのものや人から愛され尊ばれることになるのは必定である。それ故金や物ではなく、愛と敬とをもって第一にしなければならない。その愛の本源である「神」を、この現代に於いて今こそ思い起して信仰するのが何よりも大切であることを、重ねてこ

ここに強調する次第である。

「完」

第37回目を迎えた『一番大切なもの』の連載も、今回で最終回を迎えました。次号からは、別の真理の本を連載いたします。

- (01) 悲劇 tragédia (02) 遠方 lugar distante (03) 貧窮 apertos da pobreza
- (04) 敗戦の廃墟 ruínas da derrota (05) 黒字国にのし上がって来た veio a ser um país superavitário (06) 実例 exemplos (07) 現象という仮想の一部 parte do fenômeno irreal
- (08) 名誉 fama (09) 傲慢 arrogante (10) 国債の利率 taxa de juros do título do Tesouro
- (11) 変動 oscilar (12) 指摘 apontar (13) 物質的 coisas materiais (14) 排斥 rejeitar
- (15) 上述 acima mencionado (16) 排日 anti-japonês (17) 追隨 seguir
- (18) 悪影響 má influência (19) 引き金を引いたり causar (20) 惨状 situação trágica
- (21) 憲法改正 reforma da constituição (22) 農地改革 reforma agrária
- (23) 無制限 ilimitado, sem limites (24) 土地私有 posse de terreno (25) 零細農民 pequeno lavrador
- (26) 察知 perceber (27) 大地主 grande proprietário
- (28) 乱行 violência (29) ワイロ戦術を行使 usar a tática de suborno
- (30) 乱心の結実 fruto da demência, loucura (31) 利権 interesse, benefício
- (32) 温暖化現象 fenômeno do aquecimento global (33) 人類学者 antropólogo
- (34) 虫けらのように como animal, ser inútil (35) 伐採 desarborização
- (36) 精神の墮落 degradação espiritual (37) 神性隠蔽 encobrir a natureza divina
- (38) 地球の死滅を弔う行進 marcha fúnebre da extinção da Terra (39) 内部崩壊 desintegração interna
- (40) 滅亡を防止 prevenção da extinção (41) 軽視 dar pouca importância
- (42) 利己的な願い desejo egoístico (43) 物欲 desejo de coisas materiais
- (44) 嘲る者は嘲られ aquele que zomba será zombado (45) 尊ばれる respeitado
- (46) 本源 origem, princípio

02/04/2010 ~ 26/05/2011

圓環ご協力者ご芳名

(単位・レアイス)

聖北 1 教化支部様 440,00	々 宮崎千代子様 30,00
リオ 喜友里うと様 100,00	々 建本ひろし様 30,00
聖市 1-ボスケ・ダ・サウーデ白鳩会様 50,00	々 細見啓子様 30,00
聖市 1- ビラ・マリアナ白鳩会様 100,00	々 福井達男様 30,00
聖市 2 重松富子様 30,00	々 渡辺花子様 30,00
セントラル 2 エスタンシア相・白会様 200,00	々 飯島花枝様 30,00
ソロカバナ 1 柳沼かずお様 30,00	々 花城千代子様 30,00
々 稗田三秧様 30,00	々 嘉手川しげ子様 30,00
々 勝谷初代様 30,00	々 安里キヨ様 30,00
々 樽本健三様 30,00	々 垣花美代様 30,00
々 東野清子様 30,00	々 渡辺純一様 30,00
々 溝渕勝子様 30,00	々 田辺勇様 30,00
々 富吉美津子様 30,00	パラナ 3 伊川清司様 40,00
々 菅野松江様 30,00	々 富森マリオ様 40,00
々 小野モジ子様 30,00	々 井戸信子様 40,00
々 橋永パウロ様 30,00	々 佐藤政夫様 40,00
々 川崎聖子様 30,00	々 藤谷美弥子様 40,00
々 三田村澄江様 30,00	々 門脇秀子様 40,00
々 船田立枝様 30,00	々 中島信様 30,00
々 樽本輝生様 30,00	々 佐藤純子様 30,00
々 泉田和子様 30,00	々 豊島忠晴様 34,00
々 船田宗幸様 30,00	々 亀岡光江様 10,00
々 谷口英明様 30,00	々 福原敏郎様 20,00
々 大森孝男様 30,00	々 清田喜代子様 20,00
々 松本年郎様 30,00	々 新本ルイ様 40,00
々 園田吉助様 30,00	パラ 教化支部様 2.000,00
々 田中栄様 30,00	聖市 2 ボンフィグリオーリ相・白会様 200,00
々 絵澄ジョルジ様 30,00	ポルト・ヴェリオ 松野克彦様 100,00

聖市 5 --- サンターナ相・白会様 300,00
A B C ----- 伊藤善作様 50,00
聖市 1----- 松原茂子様 50,00
聖市 1 ジャ・ダ・サウーデ白鳩会様 200,00

パラナ 1 ----- 古沢哲夫様 70,00
ソロカバナ 1----- 教化支部様 300,00
聖市 4 ----- イタケラ相・白会様 300,00

多くの読者の皆様より、円環発行へのご芳志をいただき、心より感謝申し上げます。

南マ州第2 青年部 見真会



去る4月2日～3日に、南マ州第2教化支部(Dourados)で青年会の見真会が開催された。担当はブラジル青年会副会長 シェイラ・ミヤザキ・デ・リマ講師、日本語ジュニア部長村上恵美 伝道員。山崎輝勝教化支部長御夫妻の出迎えを受け、一日目はLaranja Lima支部(Douradosより30km)で青年会、相愛会、白鳩会の皆様と懇談会が行われ、今後のLaranja Lima支部の青年会の方針について話された。二日目はDourados教化支部でジュニア部、青年会の皆様25名の参加があり、見真会が行われた。今後、Laranja Lima支部の青年会の活躍が期待される。

◆強さと正しさと明るさ。吾らの理想はここにある。心にこれが成就したとき、外はおのづから整う。(智慧の言葉)

生長の家 塩椎の会俳壇

吊柿は秋の農家の風物誌 仲宗根朝春
秋扇残 暑厳しき夏の夜
淡水魚初試し食いパクー刺身

世知辛く忘れが先に立つ仕末 立川 ゆう
吾が娘とは何処其処行も付添われ
娘の杖に歩を合せ行く病院

パクー釣りは草をまるめて釣る土民 荒巻 重乃
母あさんが瘦せた私を吊し柿
練成でシユシユーの味噌漬旨かりし

連休を海へとさそわれ支度かな 村松 里乃
海行きも三寒をとつれ名浅り借し
五月花忙しむように四月咲き

パクー釣りし夫の笑顔はほほれそう 城 良子
市場にも秋のおとずれさをかう
お別れに真実語る秋の蝉

天災の日本に声援世界の眼 矢島みどり
不自由な被難生活痛ましき
天災の無き国に住みただ感謝

バス停の日照雨に傘させず 身吉 直子
新渡戸菊来俣びつ眺めけり
大パクー釣って小宴日曜日

被災者に笑いが戻り桜咲く 木村都由子
稼業息子に任せ余生の菊咲かせ
研究を重ねし干柿粉ふかせ

うらやまれ天然パーマも木の葉髪 香山 和栄
吊し柿そろばんのごと並び
身に入むや祖国の復興祈るのみ

パクパクやあなどりがたき力持ち 立石松男
妻偲ぶ帰らぬ人の秋扇ぎ
新米のおむすび旨し薄塩で

新米の粘りをきらう子等なりし 湯田南山子
シユシユ植えて村一番の成り金と
干し柿やモジに名高きギオンボウ

戦時中隠れ夜学に通う子ら 森西 茂行
ランプ提げ夜学に励んだその昔
独学が夜学が基礎となっており

リオ山に栗栗見えかくれ子等燥ぐ 大沢 晴子
切られても命萌え出す鉢小菊
被災地の子等明るく秋晴るる



「聖市第二教化支部42周年記念祝賀会」

去る8月29日に聖市第二教化支部42周年記念祝賀会が、buffet 矢野の宴会場で行われた。特別招待、元教化支部長、講師会長、相白連合会長及び遺族や一般招待、約280名の参加があった。梅原千鶴子教化支部長の開会の祈りに始まり、教化支部としての42年の歩みの写真がプロジェクターで紹介され、感謝状と記念品の贈呈が元教化支部長、講師会長、相白連合会長に各組織の会長から手渡された。横山豊 講師による激励のことば、元教化支部長 田場ジョージ講師、元教化支部長横山政弘講師の祝辞が終え、生長の家伝道本部総務、財務局長、大島アントニオ本部講師補の記念講演が行われた。



「2010年8月15日にパラナ第六教化支部の“寿”見真会がウムアラマ市で行われた。担当は、佐々木米造講師、補佐は段上好美講師。大成功の一日見真会となった。」

人材募集

生長の家ブラジル伝道本部では日本語及びポ語でパソコンを使えこなせる生長の家の信徒(男女)1名を募集しています。年齢は60歳まで。
お問い合わせ: ishii@sni.org.br
電話番号(11) 5014-2255 (石井ルイス 本部講師補)

◆ 今まで注がれた愛で、いまだ一度も無駄であったものはない。愛はこの世で花を開いて皆の者に喜ばれ、神の国で実を結ぶ。愛せよ。少しも求めずに愛せよ。これが愛の秘訣である。
◆ 結果を求めた愛は必ず不幸になる。
(智慧の言葉)



ジュニアの部ー1位
MGーJuiz de Fora
Samantha Ottoni Cavalcanti



青年の部ー1位 聖市第一 SP-1
村上雅雄 (Cássio Massao Murakami)



青年の部ー2位 São Miguel Paulista SP4
Vânia Silva de Araujo



青年の部ー3位 聖市第二 SP2
エウリッコ・アキラ・ヨシオカ
(Eurico Akira Yoshioka)

「第一回全国ブラジル青年会」

(日本語・ポ語)

テーマ*

「あらゆる色のブラジル」

「真理に一生を賭けた
松田己代志物語がDVD化される」

あなたはグローバル化後の現代、情熱的な理想
に向って生活できる空間がある事を信ずることが
出来ますか？

真理に一生を賭けた
松田己代志物語



♥この挿げ物にあなたを御招待いたします。
♥これは国境を超えて反響する歴史の物語です。

6年間根気よく伝道し、生長の家の御教えをブラジル
を始め全ラテン、アメリカ諸国に伝えた元ラ米教化局長
松田己代志先生の事です。

この事業は最もすぐれた映画芸術を取り入れ、松田己代
志先生の孫の監督のもとで制作されつつあり、ただ英雄的
素質のみでなく舞台裏で活躍された方々の挿発、いまだに
家族から発表されていない写真、品物等が初めてDVDで
紹介されます。

この事業についてくわしい事を知りたい方、又は賛同し
御奉納御協力下さいます方は、下記のホームページにクリ
ックして下さいませ。

挿発：生長の家ブラジル伝道本部

BANCO BRADESCO
Agência: 3392-8 Conta corrente: 5902-1
Contato: (11) 3774-0220 / 9789-0003
www.miyoshimatsuda.com.br

